



～ 文教のまち西原 ～

にしはら

町の世帯・人口

(平成4年6月末現在)

世帯数	8,132戸
人口	26,654人
男	13,620人
女	13,034人
6月の人口移動	
出生 35件	死亡 9件
転入 61件	転出 85件
婚姻 12件	離婚 1件

編集・発行/西原町役場企画課(広報係) 西原町字嘉手苅112番地 ☎098(945)4533 印刷/(協)丸正印刷



とじて保存すると便利です

「たばこの害にびっくり」

町婦人連合会(下地郁子会長)は、平成4年度会員研修会を7月4日午後、町中央公民館で開きました。

今回は21世紀を担う青少年の健全育成について学ぶとともに、会員相互の親睦を深めることが目的。研修会の前半は「たばこと未成年者への害について」と題し、講師の東均さん(アドベンチストメディカルセンター牧師)による映写と講話があり、後半は「町内の最近の報告」と題し、子どもたちの不良行為について伊川幸子さん(町婦連文化部長)が実態報告。助言者は城間期一さん(町人権擁護委員)。約200人の会員が青少年の健全育成について考えました。

21世紀を創造する人間性豊かな「文教のまち西原」

子どもが家庭・地域にかえる日

学校週5日制がスタート

9月12日(土)から、毎月1回第2土曜日は、公立学校が休みになります。(幼稚園、小・中・高等学校、盲・聾・養護学校)

9月からの実施を目前に、心配ごとや疑問のあるご父母も多いと思います。町教育委員会の考え方がまとまりましたので、それぞれの立場で何をやるべきかを前号に引き続いて、一緒に考えてみましょう。



学校週5日制についての取り組み

平成4年7月7日に学校週5日制についてどう取り組むかということで、学推協の拡大役員会を開きました。出席者は学推協会長・各小中学校長・各小中PTA会長・町P連会長・学識経験者・教育長・教育委員会関係者で、活発な話し合いがされました。

1. 第2土曜日が休日

平成4年度の学校週5日制は第2土曜日が休日になり、下記のようになります。

平成4年	9月12日
	10月10日(体育の日)
	11月14日
	12月12日
平成5年	1月9日
	2月13日
	3月13日

2. 組織

学校週5日制の実施は学校、家庭、地域社会はもとより県民の生活にも深く関係する問題です。

本町におきましては、スムーズに実践するために「西原町地域ぐるみ学力向上推進協議会」を活用する事になりました。

3. 町教育委員会の取り組み

- ・各施設の開放
- ・ボランティアの育成
- ・指導員の配置
- ・社会教育事業の活発化
- ・その他

対応については、学推協支部の組織を活用することをおすすめします。

4. 施設の開放

施設の開放については、町の施設・学校・そして地域の公民館の活動を考えることにしました。

- ・地域公民館の開放
- ・児童館の開放
- ・町中央公民館の開放
- ・町民体育館の開放
- ・町民陸上競技場の開放
- ・学校の体育館の開放
- ・学校の運動場の開放
- ・学校のプールの開放
- ・その他

上記の考え方で学校週5日制が実施されます。町民一人ひとりのご協力をお願いします。

具体的な取り組みについては次号に掲載します。

西原町教育委員会
☎ 945-3655

特集²



45分の休憩時間になると、子どもたちは自主的に遊んでいます。

学校週五日制へのQ&A

Q なぜ今、学校週五日制を実施しなければならないのですか？

A 現在の知識偏重で画一的になりがちな教育を家庭、地域、学校全体で見直すためです。生活体験や社会体験の不足を補い、豊かな人間関係や社会性を学ばせるには時間のゆとりを作ることが必要です。

Q 学校週五日制によって、学力の低下を招くことはありませんか？

A 学校行事や準備時間の見直しなどで、授業時間を確保するよう工夫します。

Q 家庭や地域社会の受け入れ体制が十分でないまま実施すれば、塾通いを過熱化することになりませんか？

A まず、親の判断で休日の土曜日にも塾通いをさせることは避け、積極的に地域活動に参加させたり、家族のふれあいの時間を作るなど、子どもたちに有意義な土曜日を過ごさせることが

大切です。文部省の実験校でも学校週五日制によって塾通いが増加した例はほとんどありません。

Q 共働き家庭ではどう対応すればいいのでしょうか？

A 学校、家庭、地域が一体となつて子どもたちに、土曜日の過ごし方を指導します。

子どもたちが
時間に追いか
けられている？

子どもたちは今、毎日の生活にゆとりを失っています。

「もっと調べてみたい、自分でもやってみたい」と思うことに出会っても、じっくりそれらに取りくむ時間がありません。家族や友人、周囲の人と十分にふれあつて心を分かちあう大切な時間のゆとりも持ちません。情報化、核家族化、能率化と、目まぐるしく変化する社会の中で、子どもたちには、本当に心豊かにたくましく生きていく力が求められています。

学校週五日制は こんな教育を目指 します

これからの学校教育では、自ら学ぶ意欲と主体的に考え判断し行動できる能力を伸ばすことを基本としています。

家庭や地域社会においても子どもが主体的に使うことができる時間を確保し、ゆとりある生活の中で、遊びや自然体験、社会体験、生活体験などを通して、豊かな感性や社会性、創造性などをはぐくみ自己実現を図る必要があります。

子どもたちをとり まく周囲の活動

学校や塾でただ教えられる知識を待つ「受け身」の子どもたちに、もっと自主的に物事に取りくみ自ら選んでいく力を与える環境づくりをしましょう。

よりよい子どもたちの教育をゆとりを持って見つめ直すためには、家庭はもちろん周囲の大人たちすべての理解と協力が必要です。

家庭では…

○親子で一緒にできる遊びや行事を通して、ふれあいの機会を増やす。

○子どもたちが自身が選ぶ主体的な生活を、見守り援助する。

○積極的にいろいろな家事を手伝わせる。

いろんな施設で…

○図書室、学校、公民館、公園などいろいろな施設を利用したコミュニケーション活動・サークル活動（スポーツ・絵画グループなど）に、子ども同士や親子で積極的に参加する。

地域では…

○ボランティア活動（清掃、廃品回収、ふるさとづくりなど）や文化祭・体育祭（郷土芸能、地域の遊び・祭りなど）に地域ぐるみで積極的に参加し交流を深める。

（次号につづく）



大きな音とともに「対馬丸」が沈没していく……

全児童が「対馬丸」を追体験

劇を通して平和学習

校児童七百七十九人と職員らが「対馬丸」の劇を上演しました。

これは、一九四四年八月に起こった学童疎開船「対馬丸」の悲劇を同じ年ごろの子どもたちが上演することによって追体験し、戦争の悲惨さや愚かさ、平和の尊さを感じさせることが目的。対馬丸事件で犠牲になった児童生徒は七百六十七人ではぼ同校の児童数と一致。五月の職員会議に提案した宮城淳教諭は「教師が一方的に教えるより、実際に劇を体験させることによって平和や命の尊さを感じてくれるのでは」と話していました。

体育館を船に見立て練習して一ヶ月以上。そのかいあって本番では皆真剣。大きな音とともに海に沈められるところや生存者が家族と再会する場面では、熱いものが込み上げる児童も。最後は、宮城

教諭が作詞し、音楽担任の新垣札子教諭(対馬丸の生存者で当時三才)が作曲した挿入歌「今生きている私たち 今海の底に眠る君たち 声は聞こえているの 生きている私たちに言うことがあれば それは何 声にして聞かせて下さい」と、全員が平和を願う心を込めて合唱しました。

同日、かけつけた生存者の平良啓子さん(塩屋小学校教諭)

があいさつの中で「皆さんありがとう。きつと海に沈んだ人たちも慰められたでしょう。私は当時九才(四年生)の時、海で六日間漂流し、奄美大島の無人島へ流れ着いて助かった。恐ろしい戦争は二度とさせてはならない」と話しました。

子どもの声

最初、劇の話を聞いた時『えっ、どうやってやるの』と

思った。練習していくうちに先生の気持ちがわかってきた。戦争を起こす前に話し合いで解決してほしい。

〓小鍋 悠(六年)

当時は大変だったと思う。もし、疎開しなさいといわれたらぜったいしたくない。家族と一緒にいたい。おじいちゃんも戦争で亡くなった。

〓渡慶次みはる(五年)

「慰霊の日」に平和駅伝

反戦平和を訴えて心地よい汗

町は、六月二十三日午後三時半から西原の塔をスタート・ゴールに「第二回町平和駅伝」を開催しました。

これは、六月二十三日を単なる「慰霊の日」の休日止めず「反戦平和を希求する日」として位置づけ、広く町民とともに反戦平和を内外へアピールすることが目的。

開会式では、参加者全員による一分間の黙とうの後、城間光雄町議会議長が開会のあ

いさつ。その後、平安町平和駅伝実行委員長が「恒久平和の実現は、日頃の地道な取り組みが大切。平和の尊さを訴えることが目的です」と説明し、引き続き「平和アピール」を朗読しました。

参加チームは各行政区や町婦人連合会、ハートライフ病院、町役場チームなど全部で十九チーム。小学生・中学生・高校生の男女それぞれ一人と一般から青年(男三人・女一



19チームが一斉にスタートしました

コラポンの購入 一部補助開始

生ごみをリサイクル



補助開始を喜ぶ関係者ら

町は、七月一日からコラポン(生ごみ処理容器)の購入一部補助を開始しました。

この日、役場玄関前では補助制度の開始式が行われ、町婦人会や町・農協職員ら約五十人が出席しました。

これは、今年二月七日町ごみ問題対策会議(吉田朝啓議長)から答申が出された短期計画の中から、生ごみ処理容器の購入一部補助を開始したことによるもの。一世帯当たり三千円を限度とし、町保健衛生課へ申し込み、通知が届いたら差額金を準備し、町農協で支払い、受け取る。費用は

一基六千円から。

開始式であいさつに立った平安町長は「ごみの減量、資源化、リサイクル化を真剣に取り組む必要がある。生ごみをたい肥にして土にもどそう。これを機会にごみ問題をみんなで考えよう」と述べました。

これに対し下地郁子さん町婦人連合会長)は「昨年からごみ問題に対する意識の高揚を図ったので一部補助が実ってよかった。実践の中心になるのは私達婦人なので、常にピーアールしていきたい」とお礼の言葉を述べました。

復帰二十周年記念事業を検討

気軽に参加できる事業を!

町では、復帰から二十年の歴史的節目を迎えた今年、町としても記念事業をやろうと町復帰二十周年記念事業検討委員会が発足しました。その委嘱状交付式及び第一回検討委員会が六月十九日午後、役場会議室で行われ、委員十五人に対し委嘱状が手渡されました。

検討委員会では、正副委員長が互選された後、早速、記念事業を検討。基本的考え方を確認しました。

基本的考え方としては①町民一人ひとりが二十一世紀に

向けて平和で豊かな活力ある「文教のまち西原」づくりのため、その創造性、主体性の発揮できる事業②歴史を回顧する契機となるとともに永く後世に残り、伝えられる事業③町民一人ひとりが共通の認識の基に気軽に主体的に参加できる事業などとなっている。

具体的な実施事業については、次回話し合う予定。
なお、検討委員は次の通り
(敬称略)

▽委員長・城間光雄▽副委員長・翁長正昌▽委員・与那嶺浩、宮平吉太郎、平敷静男、城間期一、呉屋實、小川孝、下地郁子、呉屋安信、新川雅懼、呉屋定子(以上団体代表)小川良夫、大城助徳、宮平正輝(以上町職員)

町出身者二人が表彰

オキナワTOY P大賞'92

第二回オキナワTOY Pといっぷ)大賞'92(主催・日本青年会議所沖縄ブロック協議会)の受賞記念式典が、六月十七日午後、那覇市内ホテルで開かれ、町出身二人が表彰されました。

ングラディッシュで献身的な活動をしている新川代利子さん(字我謝出身三十九才(審査委員長特別賞)の二人。おめでとうございます。

TOY P大賞は、あらゆる分野で活躍し、社会に貢献している将来性豊かな十八才から四十才までの若者を表彰する制度。表彰されたのは安谷屋隼裕さん(字我謝八の一、三十九才(国際交流賞)とバ



早速、記念事業を検討しました



新川代利子さん



安谷屋隼裕さん

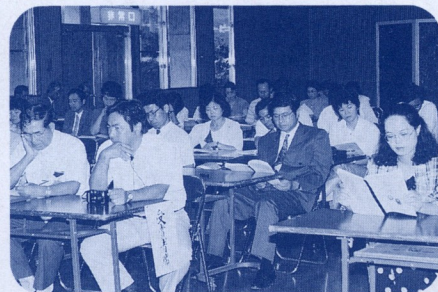


スケールの大きさに感動

「踊りの輪は人の和」をテーマに第3回全沖縄民踊フェスティバルが6月21日宜野湾市立体育館で開かれました。

総勢 2,700人余の民踊愛好者らが一堂に集い、日頃の学習活動の成果を披露。相互の親睦を深め、民踊の喜びを分かち合いました。町内からも6チームが参加。熱気あふれる中、堂々と踊りました。

なお、参加チームは次の通り。
▷町老人民踊レク・サークル、あゆみ民踊会、町子ども会育成連絡協議会、町子ども民踊サークル、町民踊愛好会、オーロラ民踊愛好会



町P連が定期総会

育てよう!心豊かでたくましく生きる子どもを＝をスローガンに町PTA連絡協議会(新川雅樹会長)は、平成4年度定期総会を6月26日午後、町中央公民館で開きました。

新川会長はいいさつの中で「5月30日西原南小PTAが町内6番目として結成された。また、各単Pにおける個性豊かな活動に敬意を表します」と話しました。

その後、5人へ感謝状、6人へ表彰状が手渡されました。

なお、被表彰者は次の通り。
▷感謝状・中村義盛、渡口宏、宮里憲幸、砂川守之丞、伊川幸子
▷表彰状・平良忠夫、新垣ヤス子、大城誠一、比嘉良富、喜屋武枝美子、神村亨 (敬称略)



保健婦の山城さん、がんばって!

これまで頑張ってこられた南部保健所派遣西原町駐在保健婦の友利悦子さんが中央保健所へ転勤になり、4月1日付コザ保健所から山城幸子さん(字小橋川14番地の1、40才)が着任しました。

西原町民でもある山城さんは、「町民と接する機会が多いので、出合いを大事にしたい。また、人口が増加する本町では保健事業相談センターが将来的に必要でしょうね」と話していました。



「お父さん 喜ぶかな」

いつもお仕事でつかれているお父さんへありがとうのきもちをおくりましょう＝と児童館では、6月17日午後、父の日プレゼントづくりが行われました。

挑戦したのは12人のちびっこたち。家から持ってきたクッキーなどのあき缶ふたに、いろいろな形(カニや魚、くだものなど)に色ぬりをし、かけひもをつけて伝言板ができあがり。「お父さん、喜ぶかな」とうれしそうでした。



坂田小で早くも運動会

＝なかよく・きまりよく・ねばりよく＝をねらいに坂田小学校(下地昭栄校長)では、早くも運動会が行われました。

1年生にとっては小学校初めての運動会。6年生にとっては小学校最後とあって、特に子どもエイサーでは勇壮な姿で力強く踊り、上級生としての貫禄を見せました。

6月の運動会は町内で一番早く、全校生徒 774人が最後までがんばりました。



家にあるものより大きいね!

すごい!大きなお鍋だねーと、坂田小学校(下地昭栄校長)1年生 117人及び父母らが6月25日午前、学校給食共同調理場を見学しました。

調理場でテキパキと給食をつくらしている様子を見ながら説明も聞いていました。

その後、同校体育館に移動し父母らが試食。初めて試食したという安里寛盛さんは「町民がいつでも試食できる部室があるといいですね」と話していました。



老人も学習が大切です

老後の幸せ、生きがいを求めて学習し地域社会活動へ参画しよう—と町教育委員会及び町老人クラブ連合会主催による文教大学が、今年も7月13日から始まりました。

学習課題も幅広く、「知って得する法律」や「生き生き人生」「消費生活の実態」など8月31日までに8回の講座を予定。

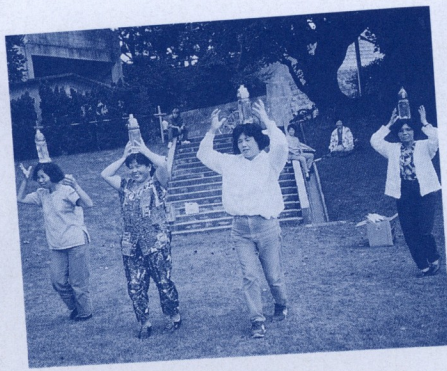
今回は人数も増えて約150人が出席し、講話を聞いて熱心にメモを取っていました。



今、地域活動が重要だ！

生涯学習のキーワードは“交流”から—を合言葉に自治公民館長及び自治会長等宿泊研修(主催・町教育委員会)が、6月27日から28日までの2日間、ガーデンヒルズ(恩納村)で行われました。

研修では、「地域との係わりの中から」と題し山内昌重さん(県派遣社会教育主事スポーツ担当)が講話。生涯学習の中における地域活動の重要性が強調されました。



ごみ処理施設などを視察

小波津団地自治会(山入端立美会長)は、6月12日東部清掃施設組合を始め、昭和製紙工場見学など一日バスツアーを行いました。

町ふれあいバスを利用し39人が参加。1日91トンのごみ量を1千度近い熱で昼夜燃やし続ける焼却炉をモニターテレビで観察。燃えるごみの中に瓶や缶、スプレーなどがまぎれ込むと炉内が傷つき、修理代が?千万円になるなど、施設運営の難しさと働く人たちの大変な苦労を痛感しました。

また、昼食後はゲームなどをして楽しく過しました。



障害者試験採用(奥原さん)

6月19日に実施された平成4年度職員(障害者)採用試験の合格者に対し、町は7月1日に辞令を交付しました。

採用されたのは字我謝187番地の9、奥原陽子さん(34才)。奥原さんは「後に続く人に採用の門が開かれるよう頑張りたい」と抱負を述べました。

配置は、福祉課、身体障害者係を担当します。



放送設備に250万円助成

小波津団地自治会(山入端立美会長)は、自治総合センターによる平成4年度コミュニティ助成金の交付が決定され、その交付式が7月4日午前、町長室で行われました。

助成対象は自治会放送設備整備、各種イベント用音響設備一式、告知放送設備一式。助成金が250万円。

昨年同自治会は、自治省からコミュニティ活動活性化地区に指定。山入端自治会長は「今年は自治会結成15周年になるので記念式典などを予定。放送設備を整備し『私のふるさと自慢』・『芸能の夕べ』等の文化イベントに関する事業を推進したい」と述べました。



すっきり、きれいに！

明るく住みよい町づくりを推進しようと町では、7月7日を「道路排水愛護デー」と設定し、町内の主要道路や河川、海浜等を中心に1日共同清掃作業を実施しました。

全ての町民及び事業所が自分達の地域の環境美化に関心を持ち、「道路、排水、河川、海岸愛護の意識」を高めることが目的。

朝9時から始まった共同清掃作業には、町長を先頭に町内事業所や各種団体、町民及び役場職員らが参加し、約350人が手にカマや草刈り機、チリ袋などを持って炎天下の中、汗を流しました。

町民に親しまれる広報を目ざして町では、エプロン通信員を選考していたが、このほど決まり、七月三日午前、町長室で二人に対し委嘱状が手渡されました。

地域の声を広報紙へ エプロン通信員決まる



中央右から 喜名さん、山城さん

これは町民の紙面参加であるとともに、婦人の目から見た町行政及び地域の話題をルポ(取材)してもらおうというもの。

あいさつの中で平安町長は「まちづくりの基本の中に町民参加があり、自主的に行政へ参加することも大事。エプロン通信員を置くことで、地域のいろいろな記事や地域の声を町の広報紙の中に生かしたい」と激励しました。

これに対し、山城美恵子さん(字翁長五百二十三番地の一、三十七才)は「ふるさとの西原に来てこれまで眠っていた自分を起こし、地域に溶け込むチャンスにしたい。町民に親しまれる記事を提供できたらと思う」、喜名京子さん(字小波津八百三番地の百二十四、四十四才)は「緑や花が多く空気がきれいな西原でいろいろなものを学びたい。みんなが『すばらしい西原』と感じられるように協力したい」とそれぞれ抱負を述べました。

なお、二人が町広報に登場するのは、九月一日号から予定。任期は二年。



諸見里米子さん

事務担任者に諸見里さん

小波津団地区の事務担任者が、六月一日から変わりました。

新しい事務担任者は諸見里米子さん(字小波津三百五十一番地の二)です。みなさんどうぞよろしくお願いします。



さっと集まり笑顔でカメラに向うバレークラブのメンバー
(円内が大城孝市さん)

シリーズ

がんばってます

15

バレーは 楽しく明るく

本町がバレーボールの盛んなまちとして有名になったのも各小中学校における熱心な指導者のお陰と言えるでしょう。今回紹介する大城孝市さん(字与那城二百四十番地の一、地方公務員、四十三才)もその一人。

レーボールクラブ女子を指導。現在の部員は約三十人(三年生以上)。時間は五時から七時半まで。

改めてきっかけを聞かれても返事に困るという大城さんは「バレーボールと子どもが好きだから」と照れた顔で話していました。

指導をする時、気をつけている点は①無理はさせない ②性格を見ながら指導する ③先輩、後輩を大切に ④あいさつをきちんとするなどです。

時々、筋力をつけるため子どもたちに水泳もさせているという大城さんは「自分の健康管理もしながら子どもたちと楽しくやっている。小学校では基礎練習が中心だから、できれば中学校までバレーを継続してほしいですね」と話していました。

指導者の持ち前の明るさが、子どもたちにも現われ、楽しい雰囲気練習していました。そろそろ後継者がほしいという大城さん、これから頑張ってくださいね。



初心者也大歓迎のバドミントンサークル

汗流し ストレス解消

バドミントン サークル

ちよつと

拝見 コーナー

毎週月・木曜日の午前十時半

から十二時半までの二時間、町民体育館内では、元氣な主婦らがバドミントンを楽しんでいます。

サークル名は「サンシャトルズ」。結成して五年。最初は八人でスタートしたが、今では会員が十八人になりました。

た。会費は月に一人千円。

代表者の宮城明美さん(字翁長九百二十番地の十一、四十八才)は「主婦の運動不足とストレス解消のために始めた。二時間の練習は充実している。今では気持ちに張りが出てきました」と話していました。

「いつの間にか三十二年になった」

親泊氏 叙勲受章祝賀会

春の叙勲において勲四等瑞

宝章を受章された親泊輝武氏(字与那城九十番地 七十五才)の受章祝賀会が六月十六日午後七時から町中央公民館で開かれました。

受章の喜びを共にわかちあい、その栄誉を讃え、今後のご精進を祈念するためのもので、二百五十人が参加。

親泊氏は一九五四年(昭和二十九年)から八期(三十二

限られた時間内で三コートを有効に使用。試合中は気持ちを集中。終った時は、さわやかな笑顔で会話が始まりま

す。会員の平田マサ子さんは「汗を流すだけでなく、子育ての話し合いや日頃の悩みを相談する場にもなっています」と話していました。

会員になりたい方は、月・木曜日午前十時半からラケットを持って参加して下さい。初心者也大歓迎です。

町民体育館(電)四六八六五

ったことが実感である。これも地域住民と町民の心温まるご支援のお陰である。心から感謝しています」と話しました。



祝賀会のもよう(円内が親泊氏)

内容のある町史に!

任期満了に伴う町史編集委員の委嘱状交付式が六月二十二日午後、議会委員会室で開かれました。

委員は、十三人。町史発刊計画によると、第一巻〜第十三巻を平成十二年度までに終る予定。即ち第二・三・四巻及び別巻が発刊。委員長に再選された平敷静男さんは「町の文化行政を進める上で内容のある町史にしたい」と抱負を述べました。

その後、事務局から編集経過・状況報告などが行われました。

なお、町史編集委員は次の通り。

(敬称略)

▽委員長・平敷静男▽副委員長・与那嶺浩▽委員・呉屋善記・城間期一・城間源市・城間光雄・平良徹夫、竹下小夜子、玉城政光、当真嗣一、渡名喜明、宮平実、小川良夫(任期二年)



町史編集委員会のもよう

身元確認強調月間実施中 行方不明者をさがす 相談所開設

期間 (8月1日～8月31日)

場所 警察本部鑑識課
TEL 862-0110

浦添警察署
TEL 875-0110
内線 234

相談事項

- ①家出その他の理由で行方不明の人
- ②音信不通で生死がわからない人

お願い

- ・お心あたりの方はお気軽に
- ・無縁仏の身元確認にご協力を

「シルバー人材センター」への参加と アンケート調査のお願い

—高齢者のみなさんの豊富な経験と能力を生かして
いただくために—

高齢者の皆様方の中には、雇用関係をもたない補助的・短期的な仕事があれば「自分の経験を生かして地域社会のために尽したい」「健康のため何らかの仕事をしたい」「自分の孫の小遣いぐらいは自分の力で」とお考えの方々がいらっしゃると思います。

このような高年齢者の方々が、その希望に応じて経験、能力を生かして仕事出来る場を作るため、平成5年度を目処に「シルバー人材センター」を設立する準備を進めています。

つきましては、あらかじめ皆様方のご意向をお尋ねし「センター」設立の参考にしていくため、アンケート調査を行うことにしました。なお、この調査には、住所、氏名を書く欄がありますが、これは、後日センター設立についての説明会を開催するなど各種連絡用のためであります。決して調査目的以外に使用したりはいたしません。

御多忙中とは存じますが、趣旨をご理解頂きアンケート調査の際は御協力下さいますようお願い致します。

問い合わせは、町福祉課へ

☎945-5011 (内13)

お知らせ
でーびる



募集・案内

青年隊に参加し 近代技術を身につけよう

第101期青年隊員募集



社団法人 沖縄産業開発青年協会

〒905-12 東村字平良 380-1

電話 (0980) 43-2118

43-2285

FAX (0980) 43-2505

「農地無断転用防止対策強化月間」(平成四年八月一日～三十一日)

農地の無断転用をなくそう

西原町農業委員会

もし、無断で農地を転用しますと法律違反となり現状回復を命ぜられたり、罰されることがあります。
農地を転用するときは、必ず市町村農業委員会へ御相談して下さい。

農地は人々の生命を支える大切な食料を生産する県民の大事な財産であります。
この農地が、無断転用などつぶされたり、荒らされたりすると地域の農業や農村の健全な発展が妨げられます。
このため、農地を宅地などに転用し、農業以外の目的に利用するときは農地法によりあらかじめ県知事の許可を受けなければなりません。



無断転用は法律違反です

農地の転用には
県知事の許可が必要です!

交通遺児等への育成資金の貸付けのご案内

自動車事故によって、働き手が亡くなったり、又は重度の後遺障害が残ったりしたために生活にお困りの家庭の遺児等の健全な育成を図るため、当センターでは、遺児等を対象に次により無利子で育成資金の貸付けを行っております。

*貸付対象者—自動車事故により死亡又は重度の後遺障害が残った方の子供(0才から中学校卒業までの者)。

*貸付金額—一時金(当初だけ)14万3千円、月額1万8千円 入学支度金(小・中学校入学時)4万円。

*貸付期間—貸付決定時から中学校卒業まで。

*返還期間—中学校卒業後20年以内の均等分割返還。

(高校、大学等への進学者は、卒業まで返還開始を猶予)

申請・お問い合わせについては、
自動車事故対策センター沖縄支所
那覇市前島2-21-13(ふそうビル6階)
でんわ (098)862-8667まで。

母子及び父子家庭等医療費助成スタート

本町では、平成4年7月より母子家庭及び父子家庭等に対し、医療費の一部を助成することになりました。これは、母子、父子家庭の保健の向上と福祉の増進を図ることを目的として新設された制度です。

この制度について、詳しいことは町役場福祉課までお問い合わせください。

☎ 945-5011(内線13)

寄付・香典返し
▽(有)東洋建設職員一同より、社会福祉事業に役立て下さいと町社協へ三万二千元。
▽字翁長九十番地、豊平朝彦さんが、故祖母オトさんの香典返しとして町社協へ十万円。
▽字小那覇八十一番地、新川貞雄さんが、故母トヨさんの香典返しとして町社協へ五万円。

西原町長選挙 投票日は平成4年9月6日(日)

任期満了による西原町長選挙が平成4年9月6日に行われます。貴重な一票を無駄にしないように皆さんそろって投票しましょう。

◎ 投票時間

午前7時から午後6時まで

◎ 選挙告示

平成4年9月1日

◎ 名簿縦覧

平成4年9月1日～2日まで(2日間)

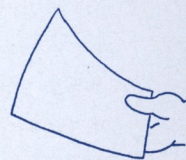
◎ 住所要件

平成4年5月31日までに転入届をした者で投票日まで引続き町内に居住している者

◎ 年齢要件

昭和47年9月7日以前に出生した者

詳しいことは町選挙管理委員会へ ☎945-5011



投票箱

入国警備官募集

平成4年度
入警受験案内
人事院・法務省

— 高校卒業程度 —



▷受付期間◁



8月21日(金)～9月3日(木)

詳しくは 法務省福岡入国管理局那覇支局へ

☎ 832-4185

水道料金の支払いは、自主納付か口座振替をご利用下さい(町水道課)

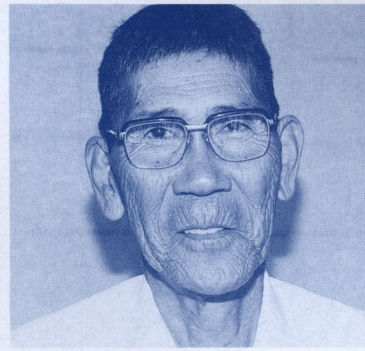
8月(AUG.)行事・祭事予定

- 1日(土) ○ビデオ会 14:00 児童館
○夏休み親子講座開級(5回) 14:00 町中央公民館
- 2日(日) ○各区対抗ボーリング大会(町体協)
○朝市 9:00 役場前駐車場
- 4日(火) ○親子平和使節団の派遣(広島市)～7日まで
○トランポリン教室 14:00 児童館(11日、18日、25日)
- 5日(水) ○心配ごと相談 14:00 社会福祉センター(12日、19日、26日、9月2日)
○工作教室 児童館(12日、19日、26日)
- 7日(金) ○町社協食事サービス 10:00 老人ホーム守礼の里(21日、9月4日)
○三歳児健診 13:30 社会福祉センター
- 8日(土) ○町役場開庁
- 13日(木) ○旧盆
- 14日(金) ○第5回親子戦争追体験平和バスツアー
○母親学級 13:30 社会福祉センター
○町社協食事サービス 10:00 町中央公民館(28日)
- 15日(土) ○映写会 14:00 児童館
○第20回中頭郡夏季大会(16日まで) 町体協
○平和展(映画、講演会) 町中央公民館
- 16日(日) ○乳児一般健診 9:00、13:00 町中央公民館
○朝市 9:00 役場前駐車場
- 19日(水) ○精神保健相談 10:00 社会福祉センター
- 20日(木) ○一歳半健診 13:30 町中央公民館
- 21日(金) ○母親学級 13:30 町中央公民館
- 22日(土) ○町役場開庁
○ビデオ会 14:00 児童館
- 24日(月) ○親学講座開級(10回) 20:00 町中央公民館
- 28日(金) ○母親学級 13:30 社会福祉センター

9月

- 2日(水) ○旅講座開級(10回) 20:00 町中央公民館
○三歳児健診 13:30 社会福祉センター
- 3日(木) ○麻疹 13:00 町中央公民館
- 4日(金) ○法律講座開級(10回) 20:00 町中央公民館
- 5日(土) ○風疹 13:30 町中央公民館

※都合により日程変更することもあります。



字徳佐田45番地
安座間喜正さん

こんにちは
ひとこと

9

スクーターですすい
字徳佐田・森川・千原の老人クラブ支部長を務める安座間喜正さんは75才。畑仕事に汗を流すかわら、ゲートボールの練習にも余念がない。何といってもびつくりするのは、スクーターが安座間さんの足であること。背筋がピンと伸びて紳士的な印象がする安座間さんは「あせらず、ゆっくり運転している。人生も同じですよ」と話していました。

平成4年度 児童扶養手当現況届 特別児童扶養手当所得状況届について

児童扶養手当及び特別児童扶養手当受給者の皆さんは、毎年一回現況届又は所得状況届を提出することになっております。

この届は、受給者の前年の所得の状況、養育の状況等について確認するためのものです。もし、この届を出さないとひきつづいて受給資格があっても8月以後の手当の支給を受けることができなくなりますので必ず提出して下さい。

受付期間 平成4年8月11日(火)～8月21日(金)

午前9時～午後4時(土曜日は午前中)

受付場所 西原町役場 福祉課

※尚、詳しいことは西原町役場福祉課までお問い合わせ下さい。

☎ 945-5011(内線13)

編集後記

▽女性コーナーは都合により休ませていただきました。
▽エプロン通信員が二人誕生しました。日ごろ感じている身近な視点から、生活の見直しや生き方、考え方までさりげなく発展させて、物事を大きくとらえてくれることを期待しています。九月一日号から紙面に登場する予定です。
▽最近の私、性格がずうずうしくなりました。素直に認めます『オバさん』の仲間入りを。

わたしたちは、スポーツに親しみ、健康の増進につとめましょう(町民憲章)